日本母性保護医協会外表奇形等調査の分析 一母親年齢と奇形児発生との関係 一

(分担研究: 先天異常のモニタリングと対策に関する研究)

住吉好雄*、清田明憲*、日原 弘*、横山哲也*、南條継雄*、村瀬 靖*、皆川 進*、 坂元正一*

要約:日本母性保護医協会(日母と略す)では、1972年より全国約270病院の協力を得て、 外表奇形等モニタリングを実施してきた。今回は1990年迄の19年間の調査結果の分析と、母 親の年齢と奇形児出産との関係について分析したのでその分析結果を報告する。

見出し語:外表奇形等モニタリング、母親の年齢、奇形児出産頻度

研究目的:わが国における外表奇形の発生 状況を継続的に調査し、特定の奇形が多発 した際、その原因を究明するのに役立てる 目的で1972年より全国規模でホスピタルベ ースのモニタリングを行っている。最近婦 人の晩婚化傾向が進みその上35歳以上の出 生児には、奇形児頻度が高いと云う考えが 少産化に拍車をかけている。そこで母親年 齢と奇形児出産頻度との関係について検討 を行った。

研究方法:全国約270の協力病院にあらか じめ調査用紙を送付し、毎月その病院で出 生した奇形児に関して報告をうけ、四半期 毎にコンピュータで統計処理を行い外表奇 形等の増減を監視している。これらの中最 近12年間の調査結果から母親の年齢と奇形 児との関係を分析した。

結果: ①1972年から1990年までの19年間の 対象出産児数は2.333.556人で奇形児数は 19.520人頻度0.84%で、各年の頻度は0.7 ~0.9%で年度による差異は認められてい ない。(表1) ②母親の年齢別分娩数の割 合は、昭和54年(1979)には20歳代が69. 1%、30歳代が30%、40歳代が0.51%であっ たが平成2年(1990)には、20歳代が56.1%、 30歳代41.2%、40歳代1.56%と20歳代の分 娩数が約13%減少し、30歳代のそれが約11. 2%増、40歳代1%増となっている。(表2) ③母親の年齢別奇形児出産頻度は20歳から 34歳迄は0.8%であるが、20歳以下は0.957 %、35~39歳は1.128%とやや高値を示す が有意差ではない。しかし40歳以上では1. 979%と5%以下の危険率で他の年齢層に 比べ有意差を示している。(表3) ④母親年 齢を5歳毎に区切り各年齢層における外表 奇形の発生順位をみると、20歳以下では水 頭症、多指症、無脳症、二分脊椎、口唇・ 口蓋裂の順であるが、20歳から34歳までは

^{*}日本母性保護医協会 (Japan Association for Maternal Welfare)

、無脳症、口蓋裂、口唇・口蓋裂、多指症 の順であるが、35歳から39歳迄、および40 歳以上ではダウン症候群が一位の座を占め て来る。 2 位以下は35歳~39歳では20~34 歳のそれらと類似しているが40歳以上では やや趣を異にし染色体異常を伴う頻度の高 い耳介低位、耳介変形、鎖肛等が上位を占 めて来る。(表 4) ④次に77のマーカー奇 形について母親の年齢別とその頻度につい て調べてみると、水頭症では20歳以下が1 万対9.3ともっとも多く有意差を示してい る。(表5)、次に二分脊椎も20歳以下が1 万対6.17と他の年齢層に比べて有意に多い 。(表 6)、35歳以上で有意に多発する先天 異常はダウン症候群で35~39歳で1万対16. 69、40歳以上で1万対56.33といずれも他の 年齢層に比べ有意に高頻度を示している。 (表7)40歳以上に多くみられるものは小 顎症(表8)、耳介低位(表9)、外耳道 閉鎖(表10)、耳介変形(表11)、口唇・ 口蓋裂(表12)等であった。

考察:1972年より全国規模のホスピタルベースで継続されている日母外表奇形モニタリングでは幸い特定の奇形が特定の地域に 多発したと云う事実は認められていない。

表1 年次別外表奇形等発生数と頻度(1972-1990)(日母)

年	対象出産児数	外表奇形児數	1 %
1972	106, 081	731	0.70
1973	109, 676	757	0.70
1974	80, 223	604	0.75
1975	96, 921	795	0.82
1976	105, 450	774	0.73
1977	98, 418	721	0.73
1978	93, 723	722	0.77
1979	160, 563	1, 435	0.89
1980	158, 145	1,400	0,89
1981	140,736	1, 192	0.85
1982	122, 474	1,047	0.85
1983	126, 727	1,157	0.91
1984	126, 313	919	0.73
1985	131,266	1,127	0.86
1986	159, 081	1,478	0.93
1987	145, 809	1, 223	0.84
1988	139, 831	1, 227	0.88
1989	116,895	1,079	0.92
1990	115, 224	1,137	0.99
<u>8†</u>	2, 333, 556	19,520	0.84

母親の年齢との関係では、20歳以下で有意に多くみられるものは、水頭症、二分脊椎があり、35歳から40歳迄に多発しはじめる奇形はダウン症候群のみである。40歳以上に有意に多発するものは、ダウン症候群、小顎症、耳介低位、耳介変形、外耳道閉鎖、口唇・口蓋裂等がありその他の奇形では年齢による差異は認められなかった。

汝献

- 1)住吉好雄、佐藤孝道、安村鉄雄、皆川進本多洋、古谷博、森山豊:日本母性保護 医協会外表奇形等調査の現況:産婦人科 治療, Vol.52(2), 159-167, 1986.
- 2)住吉好雄、森沢孝行、清田明憲、安村鉄雄、皆川進、本多洋、北井徳蔵: わが国における外表奇形モニタリング:産婦人科治療、Vol.58(5),520-525,1989.
- 3)住吉好雄: 唇裂・口蓋裂: 産婦人科の実際, Vol.39(10), 1629-1636, 1990.
- 4)住吉好雄、白須和裕、日原弘、清田明憲 南條継雄、皆川進、坂元正一:日本母性 保護医協会外表奇形等調査の分析:平成 2年度厚生省心身障害研究「地域・家庭 環境の小児に対する影響等に関する研究 」67-71, 平成3年.

表2 母親年齢別分娩数割合の推移

年次	<19	20~24	25~29	30~34	35~39	40+
昭和54 (1978)	0.46	16.1	53.0	25.3	4.57	0.51
55 (1980)	0.54	15.7	51.2	27.3	4.71	0.55
56 (1981)	0.65	15.4	50.1	28.7	4.62	0.62
57 (1982)	0.68	15.0	49.6	28.9	5.18	0.65
58 (1983)	0.78	15.2	48.3	28.9	6.16	0.70
59 (1984)	0.84	14.8	47.6	28.6	7.29	0.80
60 (1985)	0.83	14.5	47.4	28.5	8.00	0.78
61 (1986)	0.92	14.4	46.7	28.9	8.33	0.75
62(1987)	0.96	14.2	46.6	28.9	8.45	0.86
63 (1988)	0.92	13.8	45.6	29.6	8.91	1.13
64 (1989)	1.05	13.5	44.6	30.8	8.69	1.31
平成 2(1990)	1.06	12.6	43.5	31.7	9.51	1.56
	_				(日:	母〉(%)

— 80 —

表3 母親年齡別奇形児出產頻度

年齢	分娩數	奇形児数	福患率(%)	
<20	12, 954	124	0, 957	
20~24	238, 787	2,095	0.877	
25~29	782, 045	6,497	0.831	
30~34	467, 461	4, 163		
35~39	113, 214	1,277	1.128	
40+	13, 493	267	1.979 €	
合計	1,627,954	14, 423	0.886	

③P < 0.05

(日母) (1979-1990)

表7 Down Syndrome

Maternal Age	No. of Delivery	No. of Patient	Rate per 10,000	
<20	12, 954	0	0	
20~24	238, 787	53	2.22	
25~29	782, 045	268	3, 43	
30~34	467, 461	278	5.95	
35~39	113, 214	189	16.69 ⊕	
40+	13, 493	76	56.33 €	
Total	1,627,954	864	5.31	

⊕P < 0.05

JAMW (1979-1990)

表 4 母親年齡別外表奇形等順位

₹4	64 母親年齡別外表奇形等順位																			
		< 20		2	0~24			25~	29		30~	-34			35~	39			40+	
1	水	頭	症	無	脳	症	無	服	箍	無	Æ	Ĭ	症	4	ウン 5	定候	群	7	ウン症 ・	候群
2	多	指	症	口便	・口登	製		妻	3		西•(並	製		兼		製	미	F • □3	差裂
3	無	脳	症	П	滋	製	ㅁ	唐 ・□	差系		3	Ė	嬔	o,	- -	蓋	쨏	E	介個	位
4	=	分背	推	奓	指	症	*	指	5	多	扚	1	盘	3	指	ì	症	I	介宴	形
5	o.	5 •□3	主製	*	頭	錠	숌		: 1 <u>5</u>	7	ウン	症候	쐝	無	Rich Control	1	閞	鎖		AI
6	合	郡	症	合	趾	症	水	Ē,	插	合	3	Ŀ	症	耳	介	低	位	笛	帯ヘル	ニア
7	腹	壁被	쳁	鎖		Ħ	多	<u> 11</u>	: 13		#	ţ	켗	合	E1	:	症	水	頭	症
8	鹛	帯へル	ニア	_	唇	裂	0	#	3	! 水	9	Į.	症	П	番	ŧ	製	П	畫	製
9	李	趾	症	朰	趾	症	鎖		Æ	鎖			Ħ	鎖			ĀI	п	唇	製
10	鎖		AI	=	分育	椎	5	ウン!	定候都	多	E)	Ŀ	症	耳	介	変	形	無	脂	症
11	Ħ	介低	位	耳	介変	形	Ħ	介	变形	耳	介	変	形	多	£1	:	症	多	指	症
12	0	蓋	製	Ħ	介低	位	=	分	脊椎	耳	介	低	位	*	Ē	Į	症	尿	道下	製
13	п	春	製	숌	指	雄	合	指	5	=	分	脊	椎	小	¥	į	証	食	道界	鎖
14	欠	趾	症	90	ン症を	群	E	介	低化	合	£	Ł	症	合	指	í	症	Ξ	分育	推
15	食	道閉	鎖	尿	道下	裂	尿	道	下雾	尿	道	ፑ	퀗	尿	道	ፑ	퓛	外	耳道	羽鎖
16	尿	進下	製	小	類	症	臍	帯へ	ルニフ	· 外	耳道	開	韺	胨	帯へ,	ルニ	ア	小	a	症
17	Ħ	介發	形	朘	壁 破	敪	短	肢症	(下肢	騎	帯へ	ルニ	ァ	Ξ	分	脊	椎	合	指	症
18	л	欠	損	臍帶	きヘル:	. 7	外	耳道	閉鎖	小	7	Į	症	小	91	[症	気	管食	並渡
19	欠	指	症	外)	耳道科	鎖	小	#	ī	7	ŧ	Ħ	症	鼻	Ø	変	形	4	頭	症
20	攅	限膜^	h=7	欠	指	症	欠	指	2 E	短	肢症	Œ	皮)	多指	確(母指	3 1)	短	技症(上肢)
																(日	母)	(19	79-199	10)

表5 Hydrocephaly

Maternal Age	No. of Delivery	No. of Patient	Rate per 10,000
<20	12,954	12	9.3 ®
20~24	238, 787	139	5. 8
25~29	782,045	341	4.4
30~34	467, 461	208	4.4
35~39	113, 214	45	4.0
40+	13, 493	11	8.2
Total	1,627,954	756	4.6

⊕P < 0.05

JAMW (1879-1990)

表8 Micrognathia

Maternal Age	No. of Delivery	No. of Patient	Rate per 10,000
<20	12, 954	1	8.0
20~24	238, 782	51	2.1
25~29	782, 045	125	1.6
30~34	467, 461	74	1.6
35~39	113, 214	43	3.8
40+	13, 493	6	4.5 ⊕
Total	1,627,954	300	1.8

⊕ P < 0.05
</p>

JAMW (1979-1990)

表9 Low set ear

Maternal Age	No. of Delivery	No. of Patient	Rate per 10,000	
<20	12, 954	5	3.9	
20~24	238, 787	. 58	2.4	
25~29	782, 045	181	2.3	
30~34	467, 461	134		
35~39	113, 214	70	6.2	
40+	13,493	17	12.6 ₺	
Total	1,627,954	465	2.9	

⊕ P < 0.05

JAMW (1979-1990)

表10 Atresia auris

Maternal Age	No. of Delivery	No. of Patient	Rate per 10,000
< 20	12,954	. 0	0
20~24	238, 787	46	1.9
25~29	782, 045	125	1.6
30~34	467, 461	92	2. 0
35~39	113,214	19	1.7
40+	13, 493	6	4. 45 ❤
Total	1,627,954	288	1.8

⊕P < 0.05

JAMW (1979-1990)

表11 Anomaly of ear lobe

Maternal Age	No. of Delivery	No. of Patient	Rate per 10,000	
<20	12, 954	3	2.3	
20~24	238, 787	67	2. 8	
25~29	782, 045	238	3.0	
30~34	467, 461	158.	3, 3	
35~39	113, 494	56	4.9	
40+	13, 493	15	11.1 ⊕	
Total	1,627,954	535	3.3	

⊕P < 0.05

JAMW (1979-1990)

表6 Spina bifida

Maternal Age	No. of Delivery	No. of Patient	Rate per 10,000
<20	. 12,954	8	6.17 Φ
20~24	238, 787	72	3. 02
25~29	782,045	213	2. 72
30~34	467, 461	124	2. 65
35~38	113, 214	33	2. 91
40+	13, 493	6	4. 45
Total	1,627,954	456	2.80

€P < 0.05

JAMW (1979-1990)

表12 Cleftlip with Cleft palate

Maternal Age	No. of Delivery	No. of Patient	Rate per 10,000	
<20	12, 954	7	5.4	
20~24	238, 787	203	8.5	
25~29	782, 045	. 555	7.1	
30~34	467, 461	353	7.6	
35~39	113, 214	118	10.4	
40+	13, 493	18	13.3 Φ	
Total	1,627,954	1, 254	7.7	

♦ P < 0.05

JAMW (1979-1990)

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります、

要約:日本母性保護医協会(日母と略す)では、1972年より全国約 270病院の協力を得て、外表奇形等モニタリングを実施してきた。今回は1990年迄の19年間の調査結果の分析と、母親の年齢と奇形児出産との関係について分析したのでその分析結果を報告する。